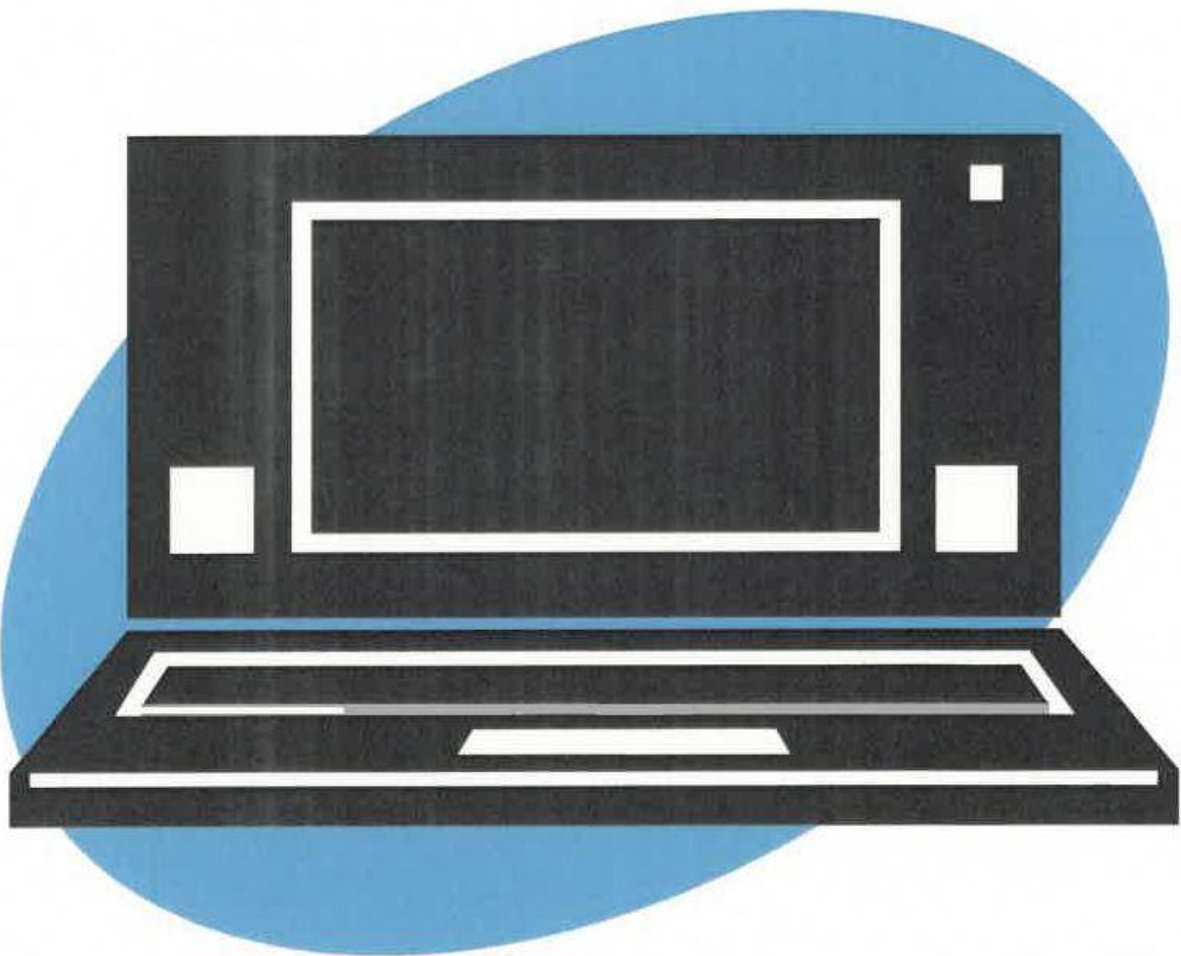


# 令和3年度 研究紀要「考える目」

児童・生徒の豊かな人間性・社会性の育成をめざした

視聴覚・情報教育はどうあるべきか

—新しい教育メディアを利用した視聴覚・情報教育の実践—



相模原市立小中学校視聴覚教育研究会

# 目 次

はじめに 相模原市立小中学校視聴覚教育研究会 会長 霧生 貴紀

## I 研究概要

1. 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2. 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・
3. 研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・
4. 研究経過・・・・・・・・・・・・・・・・
5. 研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・

## II 研究内容

### 1. 研究部の実践

- (1) メディアリテラシー教育研究部・・・・・・・・
- (2) ICT活用研究部
  - ①Google workspace班・・・・・・・・
  - ②アプリ研究班・・・・・・・・
  - ③プログラミング教育研究班・・・・・・・・
- (3) 番組活用研究部・・・・・・・・
- (4) 中学校研究部・・・・・・・・

### 2. 事業部の実践

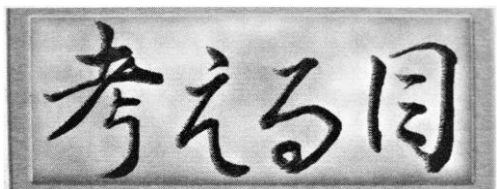
- (1) 放送コンテスト・・・・・・・・
- (2) 広報・・・・・・・・
- (3) ホームページ・・・・・・・・

## III 今後の課題

今後の課題・・・・・・・・

あとがき 相模原市立小中学校視聴覚教育研究会 副会長 田巻 直人

## はじめに



相模原市立小中学校視聴覚教育研究会

会長 霧生 貴紀

令和3年度も本研究会へのご理解ご協力をいただきありがとうございました。コロナ禍という中にもかかわらず研究を進めることができましたことは、市内小中学校の校長先生方や教育関係機関の先生方、多くのご支援があつてのことと感謝申し上げます。

さて、本研究会は研究テーマを「児童・生徒の豊かな人間性・社会性をめざした、視聴覚教育はどうあるべきか～新しい教育メディアを利用した視聴覚・情報教育の実践～」として継続しつつ、内容を時代の流れにも合わせ研究を進めてまいりました。

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、GIGA スクール構想が一気に加速し前倒しで進められ、児童生徒一人一台端末を持つ時代が現実のものとなりました。子どもたちは臆することなく使い、活用する場面が広がっています。私たち教員にとっても授業デザインの形が変わり、幅も広がっています。本研究会では、「メディアリテラシー教育研究部」「ICT活用研究部（Google workspace 班・アプリ研究班・プログラミング教育研究班）」「番組活用研究部」「中学校研究部」としています。それぞれの部会では、授業における端末の活用だけではなく、メディアリテラシーといった道徳的な面や新学習指導要領にもとづいたプログラミングに関わる研究を進めています。また、中学校の先生方との研究といった魅力ある側面も持った研究会となっています。

この一年、私たちは様々な試みを実践し、実践にもとづいた情報交換や検討をおこなってきました。今後も、変化し続ける社会に対応し、次の時代を生き抜く子どもたちの育成に、本研究会の役割はさらに重要なものになっていくことは間違いありません。今年度の研究が市内の小中学校の取り組みにつながれば幸いです。

最後になりましたが、本研究会の研究推進にあたり、相模原市教育委員会、小・中学校長会をはじめ、「FMさがみ」や多くの関係諸機関の皆様にご指導ご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# メディアリテラシー教育研究部

## 1. 研究主題 「コンピュータ1人1台時代の善き使い手を目指す情報活用能力の育成」

### 2. 主題設定の理由

情報技術の急激な進展により、子どもたちが情報を活用したり、発信したりする機会が増大している。今後も情報技術は飛躍的に進展し、人々のあらゆる活動において、機器や サービス、情報を適切に選択・活用していくことが必要不可欠な時代である。

学習指導要領が改訂され、情報活用能力(情報モラル教育も含む)を学習の基盤となる資質・能力として定められたのは記憶に新しい。また、新型コロナウイルス蔓延の影響から GIGA スクール構想の前倒しにより、一人一台の Chromebook の整備も完了した。今、機器を活用し、より良い学びを実現するためには児童・生徒にメディアリテラシーを身につけさせることが急務である。これまで求められてきた情報モラル教育を見直し、使用する児童生徒が善き使い手になるために、トラブルを未然に防ぐために制限をかけるなどの指導ではなく、使用する者の視点から、どのようなことに気をつけながら使用していけば上手に使っていくことができるのかを一緒に考える「デジタル・シティズンシップ」の視点が必要だと考える。

今年度は情報モラル教育を中心にメディアリテラシーの育成を進め、学校だけでなく、家庭や今後の生活にも生かせる力の育成を目指す。

### 3. 研究方法及び内容

『情報活用能力の育成』を主題に情報収集や実践などを行い、以下の研究を進めていく。

#### ①情報モラル教育についての研究

「情報モラルハンドブック2017」ができてから、4年が経過する。その間に1人1台端末の整備により、環境は大きく変わった。転換期である今、改めて情報モラル教育についての共通理解を図る。またこれまでを生かすとともに、改善点を洗い出し、どのように実践をしていくかについて考えていきたい。

#### ②情報活用能力の育成に向けての学習カリキュラムについての研究

教育課程の中でどのように児童・生徒に情報活用能力を身につけさせるか、情報交換を行う。

### 4. 研究経過

7月 研究計画立案

7月 部員顔合わせ、本年度の研究の進め方について

9月 各部員による授業実践、情報交換

10月 各部員による授業実践、成果と課題報告、情報交換

1月 名古屋市立白水小学校 林一真先生 オンライン講演会

1月 授業実践報告会、研究のまとめと今後の研究課題

2月 研究紀要完成

## 5. 研究内容

今年度は、GIGA スクール構想の本格実施ということもあり、授業公開は行わず、各校の取り組みなどの情報交換と部会で共通理解したことを各校で実践するという流れで研究を進めた。

まず、7月の部会では、研究の進め方について話し合った。児童に身に付けたい「情報活用能力」というのは、授業1時間単位で身につくものではなく、継続的な指導が必要なことを確認した。その上で、子どもたちが情報機器の使い方を考え、判断し積極的に使いこなしていけるように、「デジタル・シティズンシップ」の考え方を取り入れていく方針で話し合いが進められた。

9月の部会では、各校の取り組みや実際の情報モラルに関する指導の進み具合について情報共有がなされた。各校でのタブレットPCの持ち帰りは様々であり、トラブルも報告された。また、運用初期段階ということもあり、使用についてルールを設ける学校も多く、児童が自ら判断する環境は整わない状態であった。保護者や他の先生の意識も高めていく必要があることも話題になった。また、従来の「情報モラルハンドブック」の内容が現環境に対応しづらい状態にあるという声も挙がった。一方で、「広教オンライン」を使って、指導する学校の例も紹介された。

10月の部会では、前回の部会の話題を受け、岡部指導主事より「情報モラルハンドブック」の改訂が前倒しで行われることが確認された。情報モラルへの実践例の報告も増えてきた。児童がジャムボードで意見を共有しながら、タブレットPCのより良い扱いを考えたり、児童の「メディアバランス」を振り返りながら、最適な「メディアバランス」を模索していったりするような、子どもたちが情報モラルについて前向きに考えられるようになる事例もあった。

1月には、「デジタル・シティズンシップ」の著書の1人である林一真先生を招いて、オンライン講演会を行うことができた。講演会の中では、情報モラル教育が何かあってからの後手の指導になるのではなく、児童が「情報端末を自身や社会のために『善き使い手』となる」教育であることや、日々タブレットPCなどを使っていく中で、使い方や判断を「立ち止まって」考える必要があることなどが紹介された。部員の中でも、進め方に疑問を持ちながら取り組んできたが、この講演会を聞いて取り組みの方向性は間違っていなかったという声もあり、これからの実践の基盤となる講演であった。

また、広教の方から広教オンライン教材について説明があり、CBTの有効性も確認できた。

## 6. 来年度に向けて

次年度は、さらに実践的な報告ができるように、授業例を増やしていくとともに、担当だけが取り組むのではなく、それぞれの学校全体に「デジタル・シティズンシップ」の取り組みが浸透するように研究を進めていきたい。また、「情報モラルハンドブック」の改訂にも、積極的に協力していきたい。

# ICT 活用部 Google Workspace 研究班

## 1.研究主題

「タブレット PC1 人 1 台の活用環境による主体的な学びの創造」

~Google Workspace の効果的な活用法~

## 2.主題設定の理由

ICT(情報通信技術)の急速な発展は、グローバル化が進む世界に大きな変革をもたらし、児童の日常生活やライフスタイルにも影響を与えている。この高度情報化社会を生きていく児童にとって、ICT を適切に扱い情報活用能力を身につけていくことはとても重要なことである。

新学習指導要領では、情報活用能力(情報モラルを含む)などの資質や能力を育成できるよう、各教科の特質を生かしつつ、教科等横断的な視点からの教育編成を図ることが求められようとしている。相模原市では、令和 2 年度に GIGA スクール構想の実現にむけて、小中学生の全児童生徒・全職員に chromebook が配備された。Google アカウントを活用した Google Workspace のアプリケーションが利用可能となり、学習面はもちろん、学校生活全般において、様々な可能性が広がることとなった。そこで、学習面を中心に、学校生活全般において Google Workspace の効果的な活用方法を探り、一人一人の主体的な学びを生み出していくことを本研究会の主題として設定した。

## 3.研究方法

本研究部では、各教科等のねらいに迫るため、また、学校生活をより豊かにしていくための Google Workspace の活用法を探るべく、実践を積み重ね、研究を進めていく。授業内での活用法では、教科の特性を押さえながら、主体的な学習を促したり、協働的な学びにつなげたりすることを研究の柱として考えた。また、学習のみならず、学級経営や委員会活動などの諸活動における効果的な活用方法についても、各校の実践を情報交換し、より効果的な活用方法について考えていった。研究の初期段階では、Google Workspace 内のアプリケーションについて情報共有した。次の段階では、研究部員 1 人ひとりが授業案を考え、各学校で実際に Google Workspace の活用を取り入れた授業実践を行った。研究段階での情報共有は、Google classroom を活用した。

## 4.研究経過

7 月:Google Workspace のアプリケーションの確認

ドキュメント、スプレッドシート、スライド、フォーム、ミーティング、ジャムボードなど

9 月:アプリケーションの活用法 各校の実践を情報交換

10 月:授業実践について情報共有(家庭学習での実践を含む)

1 月:研究のまとめ(実践報告をまとめる)

3 月:実践研究報告

## 5.研究内容(各アプリケーションを活用した実践報告)

### 1)「ドキュメント」活用実践報告

#### 【長 所】

文章作成が可能。共同編集機能を活用することで、グループで1つの課題に取り組みやすくなる。足りない情報をお互いに補うことができる。他のグループとも共有して、コメント機能を使ってアドバイスすることでより深い学びにつながる。

#### 【短 所】

教師の目の届かないところで、児童同士で共有することで、チャットのような使い方ができてしまう。

#### 【実践例】

- ・放送原稿やレポートの作成を行うなどノート代わりに活用できる。
- ・クラスルームに課題として Up し、学習カードに振り返りを入力した。
- ・話し合い活動中のメモ代わりに活用。一人が打ち込んでも全員で共有できる。

### 2)「スプレッドシート」活用実践報告

#### 【長 所】

校務で活用。情報伝達や共同編集による資料の作成が非常にスムーズである。

#### 【短 所】

職員全員で共有していたデータが、誰かの誤入力で一気に消えてしまうことがあった。原本となるデータは、バックアップとして別データにして残しておく必要があると感じた。

#### 【実践例】

- ・提出資料を全員で共有し、同じシートに入力した。他の人がどんなことを書いたのか共有することが可能。書いていない部分の確認がしやすい。

### 3)「スライド」活用実践報告

#### 【長 所】

図や写真などを使った発表資料の作成が可能。共同編集機能を活用することで、グループで1つの課題に取り組みやすくなる。足りない情報をお互いに補うことができる。他のグループとも共有して、コメント機能を使ってアドバイスすることでより深い学びにつながる。

#### 【実践例】

- ・体育の学習(跳び箱、マット運動、鉄棒)で単元ごとのスライドを作成。1人1ページを割り当て、毎回の授業でうまく取り組めた技の動画を貼らせる。技の上達の確認、他の児童の様子から技のポイントの確認ができた。また、教員側としても評価にいかすことができた。
- ・発表資料(調べ学習、クイズ作り、プレゼン資料)を作成した。クラスルームの課題として取り組ませ、進捗状況をその都度確認した。
- ・授業スライドをクラスルームに Up した。板書の時間を省略することができる。

### 4)「フォーム」活用実践報告

#### 【長 所】

導入や振り返りの場面で活用。理解度を確認したり、学んだことを言葉にしたりする活動が短い時間で効果的にできる。校務の負担軽減にも有効。

#### 【短 所】

保護者向けのアンケートで活用してみたところ、回答率が明らかに低下した。

#### 【実践例】

- ・教科単元ごとの振り返り、国語の初発の感想など、一人ひとりの考えや意見の集約がしやすい。
- ・保護者からの欠席連絡をフォームで送信してもらい、スプレッドシートで結果を集約した。各教室で担任が欠席連絡を確認できる。
- ・授業課題の提示やテストとして活用することができた。課題やテスト結果の集約も楽に行える。

#### 5)「ジャムボード」活用実践報告

#### 【長 所】

オンライン上で同時に意見を出し合いながらアイデアを膨らませることができる。紙よりも書いたり消したりが容易なため、より多くのアイデアをだすことができる。

#### 【短 所】

共有の場面でシート全体がすぐ消せてしまうので、バックアップをとる必要がある。

#### 【実践例】

- ・算数の学習(1000より大きい数)で位取り表とお金のイラストを活用した。教具の準備や片付けの手間がないので、作業に時間のかかる低学年ほど有効である。
- ・社会の学習で、資料を添付しておき、気づいたことや疑問などを付箋で貼り付け、全体で考えを共有した。

#### 6)「クラスルーム」活用実践報告

#### 【長 所】

オンライン上で、連絡をしたり課題を出したり手紙を配布したりできる。児童・生徒同士だけでなく、教員も一緒にコミュニケーションをとれる。発言が少ない児童もコメントで自己表現できる。

#### 【短 所】

ストリームのコメント欄が荒れてしまう可能性がある。教員がチェックを行うか、必要なとき以外は書き込めないように設定しておく必要がある。

#### 【実践例】

- ・連絡手段(部活の連絡、毎日の予定、欠席児童への予定連絡、委員会や実行委員への連絡)
- ・資料配布(授業で使う資料、運動会や音楽会の音源・動画)

#### 7)「ミート」活用実践報告

#### 【長 所】

クラスにいるときと同じように授業に参加、オンライン上で他学年との交流、ゲストティーチャーによるオンライン講演会など、リモート環境でもこれまでと同じことができる。

#### 【短 所】

主催者権限をもっていない教員がミートでビデオ会議を開くことができない。  
参加人数が多くなるほど、ラグや画面の粗さが目立つ。

#### 【実践例】

- ・他クラスや他学年との交流ができなかったときに、オンライン学年会やオンライン交流会を行った。
- ・オンライン朝会を行った。発表者の顔や提示する資料が近くで観られるので、より集中して話を聞いていた。



## 6.成果と課題

○成果:アプリの効果的な使い方を考え、実践し、共有することができた。

活用方法を模索しながら実践を重ねたことで、児童と教員共に端末やアプリの活用に少しずつ慣れてきた。

●課題:個人→共有の切り替えのタイミングが難しい。

今後、授業中での活用を推進していくのであれば、どの単元の、どのタイミングで活用するのかをはっきりしておく必要があると感じた。

今回の実践での活用が本研究班のテーマである「主体的な学びの創造」につながったとまでは言えない。

## 7.来年度に向けて

今年度の研究は、「Google Workspace のアプリケーションを活用した実践」の「情報共有」を中心に研究を進めた。どのアプリケーションでどんな長所や短所があるのか、どのような実践方法が考えられるのかを研究班として示すことができた。しかし、本研究班のテーマである「主体的な学びの創造」につながった実践例は少なかったように感じる。研究会でもそこまで踏み込んだ検討はできていない。来年度については、各校に Google Workspace のアプリケーションを活用した実践を広めると共に研究テーマに迫った活用方法についての研究を進めていきたい。

## (2) ICT活用研究部

### ②アプリ研究班

#### 1. 研究主題 「タブレットPC1人1台の活用環境による主体的・対話的な学びの創造」 ～アプリの効果的な活用法～

#### 2. 主題設定の理由

ICT（情報通信技術）の急速な発展は、グローバル化が進む世界に大きな変革をもたらし、児童の日常生活やライフスタイルにも影響を与えている。この高度情報化社会を生きていく児童にとって、ICTを適切に扱い情報活用能力を身につけていくことはとても重要なことである。

新学習指導要領では、情報活用能力（情報モラルを含む）などの資質や能力を育成できるよう、各教科の特質を生かしつつ、教科等横断的な視点からの教育課程を図ることが求められている。またタブレットPC1人1台の活用環境の中で、各教科の特性に応じて、学習ソフトや地図記号アプリ等のアプリケーションソフトを活用することで児童の情報活用能力の育成につながってくると考えられている。アプリとは、メールや地図などの特定の目的をもって作られた専用のアプリケーションソフトウェアである。パソコンの世界ではソフトと略される一方、スマホの世界ではアプリと略されるのが一般的となっている。本年度は市内の先生たちが実践できるような効果的なアプリ活用の授業研究を推進するために、上記のような研究主題を設定した。

#### 3. 研究方法及び内容

本研究部では、情報交換を進め、各教科等の授業で育むためのアプリ活用法を探るべく、実践を積み重ね、研究を進めていく。アプリを活用した授業を体験した後、児童がどのように変容したかを見ていくようにする。例えば、アプリを使って基礎基本の力が高まったことや、家庭学習で進んで取り組んだことなど個別最適化の学習が挙げられる。またアプリを活用して問題解決をすることや新しい物を作ることなどは、学習方法の選択肢の1つとして取り入れた場面である。児童の主体的な学びを広げることができると考えているからだ。

研究の初期段階では、アプリケーションソフトを情報共有していく。次の段階では、研究部員1人ひとりが授業指導案を作成し、各学校で実際にアプリを取り入れた授業実践を行っていく。さらに学年や各教科に応じたより効果的な活用法について研究授業を通して検証していく。最後の段階では、授業実践の成果を報告して、研究のまとめを行い、相視研理事会で発表する。情報共有は、Google classroom を活用する。また情報発信のためアプリの紹介や実践報告を相視研ホームページに掲載していく。

#### 4. 研究経過

- 7月：アプリの情報共有（学習ソフト【ミライシード】タイピングソフト【キーボー島】等）
- 9月：ミライシード等を活用した授業や家庭学習での実践を情報共有（オンライン開催）
- 10月：ミライシード内のドリルパークやオクリンク、ムーブノートを授業等（家庭学習を含む）で活用する際、長所や短所を情報共有。
- 12月：研究授業の指導案を作成し、効果的な活用法を協議する。（オンライン開催）
- 1月：研究授業を行い、効果的な活用法を検証し、成果と課題を情報共有。（オンライン開催）  
ミライシード製作会社であるベネッセ担当者と情報交換。（オンライン開催）
- 3月：研究のまとめ

## 5. ミライシードの授業実践を終えて（家庭学習を含む）

研究部員が授業実践してみて、各機能の長所と短所をまとめた。（Google アプリとの比較を含む）

	ドリルパーク	オクリンク	ムーブノート	Google アプリと比較
基本機能	・各教科の単元に合わせた練習問題 ・ポイント ・宿題配信	ペイント、カメラ・マイク、文字、インターネット、デジタル教材、ファイル	テキスト、問題文、選択肢、マーキング、スタンプ、ペイント、図形、カメラ、ファイル、Web リンク	
文字入力		横書き	横書き・縦書き	横書き
表現方法		カード（上限100枚）	私のノート（上限5枚）	
プレゼン		スライド機能（カード同士をつなげる）低学年から簡単にできる		【Google スライド】 ・多機能 高学年向け
双方向のやりとり		カードやスライドを相手に送信	「広場」で相手の考えにコメントや拍手	
共有		①提出BOXに送信し、カード・スライドを共有 ②画面共有ボタンで、教師または児童の画面を全体で一斉共有	私のノートを「広場」に送信し、提出したノートを共有	【jamboard】 最初から考えを共有
長所	○授業の適応問題 ○自主学习 ⇒反復練習  【宿題配信】 ○家庭に PC 持ち帰り（家にある PC も可） ⇒算数の課題	○自分の考えを表現できる選択肢の1つとなる。（PC 入力が得意な子、文字を書くことが苦手な子にとって相手に伝わる表現ができる） ○低学年が手軽にプレゼン機能を使用 ○他者と考えを共有 ○普段、発言できない子にとっても、いい意見を共有することができる。	○ワークシートを作ることができる。 ⇒児童が提出しやすい ○相手の意見に拍手やコメントができる。 ⇒双方向のやりとりがインターネット上で可能 ○スタンプ機能を使うと、絵に印をつけたり、人物の気持ちの変化を選んだりできる。 ○写真などを貼り付けるだけ良い。	
短所	●使い慣れている子とできる子の差がある。 ●手書きで丸付けのほうが子どもは喜ぶ。	●（国語）情景を読み取りたいのに、文字情報が優先して学びが深まらない。物語文より説明文向きかな。 ●縦書き入力機能がない。		

6. 研究授業について

## 相視研 アプリ研究班 研究授業指導案

令和4年1月21日（金）5校時 13:35～14:20 2年1組教室

授業者：並木小学校 櫻井 寧人

学年／教科： 第2学年／道徳 ■ 題材名：金のおの

ICT の活用者 【○】 教員 【○】 児童

活用した ICT 【○】 Chromebook（内容： ミライシード内アプリ ムーブノート ）

【○】 大型テレビ

**【単元計画】**

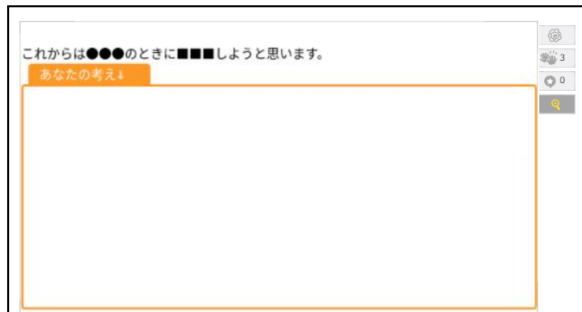
時（本時：☆）	指導項目	学習活動
1 ☆	正直、誠実	正直でいるよさについて、考えを深める

**【本時の展開】（★）はムーブノートの活用場面**

学習の流れ	主な学習活動
<p><b>導入</b> (10分)</p>	<p>・あらかじめ、自分がどのくらい正直か棒グラフ中にスタンプしたものを大型テレビに提示し、集計結果や理由を共有する。（★）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p>※まだ、クロームブックは開かず、テレビ画面に注目する。</p> <p>・正直でいることの難しさ or 大切さを確認する。</p>
<p><b>展開</b> (25分)</p>	<p>・範読を元に物語の大体を把握し、2人のきこりの行動に対する神様の対応の違いとその理由を考える。</p> <p>・嘘つきの木こりの行動を振り返り、もしもおのが取られなかったら嘘をつくかどうか考え、話し合う。</p> <p>※意見は黒板でまとめる。</p>

**終末**  
**(10分)**

- 今日の学習を今後の自分にどう生かせるか考え、カードにまとめて提出。(★)
- ※カードの名前表示は消し、誰のカードかわからないようにしておく。
- 早く提出し終えた児童は、次の順に共有活動をすすめる。
  - ①他の児童の書いたカードの中でいいなと思ったカードに拍手ボタンを押す。
  - ②カードにコメントを書いてメッセージを送る。
  - ③右上の4つの「深い学びボタン」の中から当てはまるものがあるを押す。



- コメントを全体で共有する。(★)
- ※いいなと思ったことや伝えたいことがある児童には、その場で発表させる。

■ICT の活用による主体的・対話的な視点

【支援面】

- スタンプを使うことで、他者の意見に興味を持つことができたか。
- カードに入力することで、書くことが苦手な児童にも自分の考えを表現することができたか。

【活動面】

- ムーブノートは、自分の考えとほかの児童の考えを比較し、多面的に捉え、自分の考えを深めることに役立てられたか。

【環境面】

- カードを匿名表示にすることで他者の意見に着目する効果があったか。

# 相視研 アプリ研究班 研究授業 実践報告

## ■授業の成果【良かった点や改善点】

### 【良かった点】

- 視覚的に提示がしやすい
- 子どもたちが早く書き終わっても手もち無沙汰にならなくなった
- 互いの意見そのものに関心を持ちやすくなった
- 書くことが苦手な児童も積極的に取り組むきっかけになった

### 【ふりかえりや改善点】

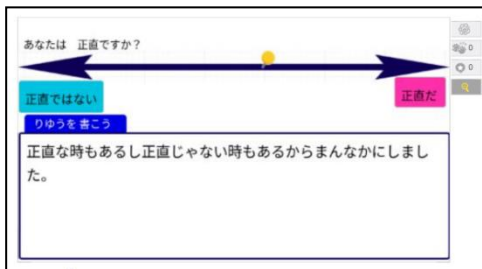
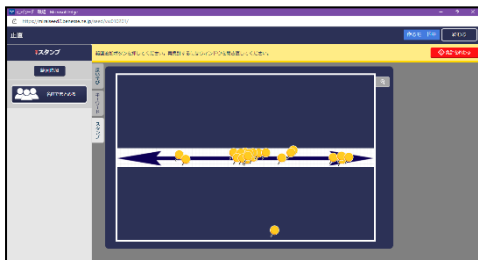
- 鉛筆でさっと書くよりは時間がかかり、消し跡による思考の微妙な変化を見取りにくい
- それにより、内容が端的な反面、淡泊になる
- 記入中の確認がしにくいため、机間指導がしにくい
- 急な不具合で時間を大幅に取られる

### ■その他

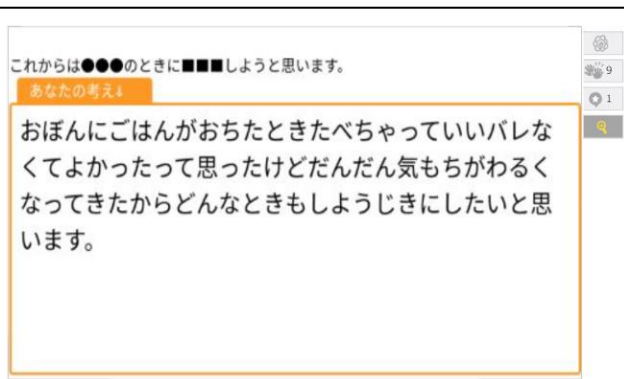
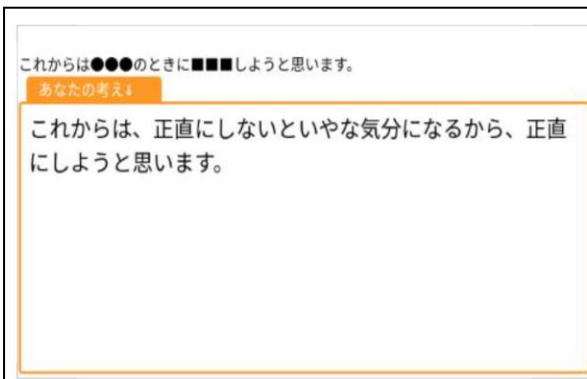
- 端的な言葉でまとめることになるので、今まで以上に授業の力が問われると感じた。
- 提示や印刷などの授業に駆ける準備はとても少なく感じた。
- 入力などの操作の習得は、思った以上に子どもたちが習得できている

## ■授業の様子

### ①スタンプ



### ②ふりかえり（一部抜粋）



## 7. 本研究を通して来年度に向けて

この一年で、一人一台 ChromeBook の導入、ミライシードアプリの導入など、自分たちを取り巻く環境は大きく変化した。コロナ禍で様々な制約がある中であつたが、各自がミライシードを含むアプリケーションソフト（以後アプリと呼ぶ）を活用した授業の実践（PC 持ち帰りによる家庭学習を含む）を積み、それを共有し、実践例として蓄積できたことは大きな成果だつたといえる。



### 【対面の研究部会でアプリ活用について話し合う様子】

研究授業では、スタンプ機能で子どもたちの意見を集約したものを提示したり、広場で学級全員の考えが記したワークシートに拍手・コメントをしたりすることを通して、子どもたちは、他者の意見を知り、学びを広げる様子が見られた。ミライシードのムーブノートを活用することで、主体的・対話的に学ぶことができる成果があつた。課題として、ミライシードにあるムーブノートとオクリンクの良さを知った上で授業を計画することが挙げた。

次年度は、ミライシードの各機能の長所を生かした授業作り目指していきたい。「まずやってみる」段階からステップアップして、「各教科の学びの充実」との関連を明らかにしながら授業づくりに取り組んでいく。また、蓄積した実践をどのように市内に広めていくのかについても年度末の部会で話題に上がった。Google classroom やホームページを活用するなど、誰もが取り組みやすくなる環境づくりについても模索していきたい。



### R3 [番組活用研究部]

#### 1. 研究主題

「授業実践における放送番組の効果的な活用」  
～子どもたちが“わかる”授業を目ざして～

#### 2. 研究内容

本研究部では、NHK for school を活用した授業研究を行っている。

NHK for school は、新学習指導要領に対応した新番組の充実や、番組時間の10分化など、授業で使われやすいよう工夫されている。ウェブサイトも充実されており、インターネットに接続したパソコンで簡単に番組を視聴できる。番組動画や学習展開案、ワークシートも用意されている。また、番組の内容に関連した動画クリップやドリル、ゲームなどのコンテンツも充実している。これらを授業で活用することで、児童の興味関心を高められたり、学習内容の理解を深めることができたりと、授業のねらいに迫る効果があると考え研究を行ってきた。

本年度も GIGA スクール構想の実現に向けた、1人1台端末の整備が進んだことから、児童が各自の端末を使って NHK for school にアクセスし、各々が番組を視聴することが可能である。そこで、放送番組を調べ学習で活用する方法について研究し、提案・研究授業を行ってきた。

##### [本年度の研究]

本年度の研究は、Google 社が提供する「Google Workspace」を使ってオンラインと研究員が直接集まる二通りで行った。研究授業は行わず、各研究員が実践したことを伝え合った。各学校に Chromebook が導入されたことから、Chromebook と NHK for school を使って、「児童が1人1台端末を使って授業に役立てる」実践について報告をした。

#### 3. 報告内容と成果と課題

##### (1) 報告内容

放送番組を活用することを、多くの授業実践で行

った。一斉視聴をしたり、児童が各々のペースで何回も繰り返し視聴したりしながら活用した。1年生の国語科「しらせたいな見せたいな」の実践では、ミラードのオクリンク機能を使い、配付する写真に動画のリンクを貼り付けた。動画の視聴をした後、調べたことを作文に書いた。また、国語科「じどう車くらべ」の学習では、色々な自動車を調べるために、Google クラウド上に自動車に関するクリップ映像のリンクを貼り、児童が自分でクリップを見ながら自動車の紹介文を書いた。6年生の実践では、社会科の学習で、動画クリップを活用した。調べ学習で、NHK for school の番組を1人ひとりが活用した。  
※実践例はこの他にも多々あり、紙面の都合上紹介できない物もある。

##### (2) 成果と課題

- ・主体的に学習に取り組む姿が増えた  
Google クラウド上に動画クリップの URL を貼り付けることで、児童が動画を選択して視聴するなど、主体的に学習に取り組むことができた。
- ・天候や社会状況でできないことが映像で補える  
コロナ渦の状況でなかなか校外学習や実習等ができない中で、映像で見せることにより学習理解が深まった。
- ・オンライン授業でのハイブリッド的活用ができた  
家にいる児童も同じ動画を見て学習ができた。  
クリップ映像は、見たいところがまとまっていたり、番組本編に入っていないことを調べることができたりと、資料の幅が広がって良かった。1人1台の環境で映像を見せやすく、調べ学習などに意欲的に取り組むことができた。動画を視聴するということが手立てとして非常に有効であり、児童の中には、調べ学習をする時の選択肢として、NHK for school を選択する習慣が付くなど、調べ学習を通して情報活用能力の育成にとっても有効であった。



# 中学校研究部

## 1. 研究主題 「中学校における ICT 機器(主にクロームブック)の効果的な活用」

### 2. 主題設定の理由

教員が授業でタブレット等 ICT 機器を活用すると、視覚的・聴覚的な刺激により生徒の学習意欲を高め、関心をもって授業に取り組むことが学習内容の理解度を深める効果があることが報告されている。

相模原市内の小・中学校では、ICT 機器の設備が進み、クロームブックも導入されている。具体的な取り組みとして、タブレット PC 等の ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの基礎研究や、1人1台タブレット PC を利用する等、ICT を活用した授業改善について研究校を設置し、研究が進められている。

教員が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行い、ICT を活用した新たな学びを実現させること、ICT を活用し、個の学習ニーズや一人ひとりの個性に応じた授業の展開を行うためにも、タブレット PC の効果的な活用について授業研究、課題の考察を進めていく必要がある。

昨年度の研究では、クロームブックやグーグルワークスペースの使い方の習得と効果的な活用方法を研究した。今年度は、昨年度の研究内容を基に、各校で授業実践を行い、クロームブックや視聴覚機器の効果的な活用方法を深めていくことを研究のテーマとした。

### 3. 研究方法及び内容

研究前半では、クロームブックの使い方、授業での活用方法について情報共有を行った。後半では、各校で授業実践や、協議を深め、効果的な活用方法(具体的な実践方法)について考察した。情報共有の場としてクラスルームを利用していく。今年度の研究によって、一人でも多くの教員が Googleworkspace やミライシードの機能を利用できるように活用事例集を作成した。

- 1 タブレット PC の活用方法を自校で研究する
- 2 各学校で授業実践研究を行う
- 3 授業実践例を持ち寄り、効果的な活用法について協議する
- 4 各研究部との連携

#### 4. 研究日程

- 7月 研究内容および年間計画の確認
- 10月 研究推進、検討、情報交換、ミニ研修【ミライシード オクリンクの使い方】
- 11月 研究推進、検討、情報交換
- 12月 研究推進、検討、情報交換
- 1月 研究のまとめ
- 2月 次年度について

#### 5. 研究内容

事例を集めるために専用のアンケートを作成した。結果の一覧は最後に URL と QR コードから確認することができる。各教科の学習、委員会活動や部活動などの生徒―教師間を対象としたもの、Forms を使った自動採点がされる課題や教育相談の自動集計アンケートなど教師の働き方改革につながる取り組み、機器設備の進行等のさまざまな取り組みが各校で進んでいることがわかった。

授業事例では、GoogleWorkspace のドキュメントやスライドなどを使用して授業課題に取り組んだり、ジャムボードで思考ツールを使用したり、KJ 法に取り組む、などの使用例が報告された。保健体育科では、手本の動画資料を配布したり、単元計画の書かれた学習カードをデータ化するなど屋外の使用もあった。

教師の働き方に関する内容では、授業課題がオンライン上で共有されていることによって採点作業員時間削減することができた。また、指導と評価の一体化につながっている。

生徒会活動などでは、議事録を記録したり、小学校とオンライン会議を行ったり、新入生に部活動紹介動画を作成するなど、幅広い活用が見られた。

課題面では、各学校で活用状況に大きな差が出ていた。また、校内の設備状況によって活用が制限されてしまうことがあった。体育館に無線ルーター設備の有無やクロームブックの持ち帰り状況によって活動の制限が生じていることがわかった。

#### 6. 来年度に向けて

今年度はクロームブック活用状況の共有から効果的な活用を模索することをテーマとした。各校で Google Workspace、ミライシード、オンライン学習関係など幅広い分野で授業実践が取り組まれていた。来年度は、中学校部会としてではなく、各分野の部会に所属することによって各校の取り組みが更に深まるように研究を進めていく。

来年度は、今年度の情報共有をいかし、ICT 機器（特にクロームブック）を取り入れた授業や取り組みを公開授業形式で共有していきたい。ミライシード関係や Google Workspace などの授業実践の共有を進めていきたい。

## 7. その他

事例共有スプレッドシートデータ [R3年度 相視研 中学校部会 授業実践例集用（回答）](#)



資料データリンク

[学習データ \(File responses\)](#)



学習の様子写真

[活動の様子の写真](#)



## 2. 事業部の実践

### (1) 放送コンテスト

- 目的
- 校内放送の活性化を図り、創造性・主体性豊かな児童・生徒の育成を目指す。
  - 児童・生徒の情報活用力や表現力の育成を図る。
  - 教員の機器活用能力の向上を図る。

### 【小学校の部】

#### ① 応募内容

1. アナウンス部門 学校生活の中から素材を求めた内容とする。内容は2分以内とする。
2. 朗読部門 次の指定作品を朗読する。作品のアレンジ・途中の省略は認めない。  
《指定作品》『モチモチの木』（光村図書 国語 3年下）
3. 動画部門 今年度、校内放送用に作ったものに限る。内容は5分以内とする  
学校や地域の特色が表れる内容にする。
4. ラジオ番組部門 学校生活から生まれたものでテーマは自由とする。内容は4分以内とする。

#### ② 参加資格

- 市内小学校放送委員会に属する児童とする。

#### ③ 審査及び表彰について

(株) エフエムさがみに審査を依頼し、同社より6名、本相視研より2名の審査委員により決定。  
入賞校に賞状を贈る。作品制作に関わった児童には参加賞（賞状）を贈る。入賞校の作品は、春休みにエフエムさがみのラジオ番組内で紹介すると同時に、入賞児童の出演を予定している。

#### ④ < 第19回放送コンテスト審査結果 > 合計28作品 参加校11校

	作品数	最優秀賞	優秀賞		FM HOT 賞
アナウンス部門	5	星が丘小学校 「星が丘小のぎんなん」	該当なし		該当なし
朗読部門	10	清新小学校	向陽小学校		桂北小学校 南大野小学校
動画部門	6	該当なし	清新小学校 「学校行事の紹介～虹色ウォークラリー～」	南大野小学校 「南っ子チャンネル MIP～学校を影で支えている人～」	桂北小学校 「さがみっこフェスティバルの紹介」
ラジオ番組部門	7	清新小学校「昼の放送 火曜日班 SP Ver」	谷口小学校「ラジオ・シューパス～廊下をなぜ走ってしまうのか～」		向陽小学校 「すきなもの」

#### ⑤ < 第19回放送コンテストを終えて... >

放送コンテストも今年度で、19回目を迎えた。これまで、株式会社エフエムさがみに協力をいただき、公正かつ、厳正な審査を行っていただいている。プロの目から評価していただき、アドバイスをもらえるようになってから、その声を学校現場に広めていけるようになってきた。また、コロナ渦のなかでも、どの学校も工夫して作品作り行っているところが大きな評価をいただいた。放送コンテストは作品づくりに関わる児童の創造性や主体性、表現力を高め、同時に教員の技能も高められる取り組みである。今後情報発信を強化し広く周知していくことで、参加校・作品数が増え、作品の質が高まること、市内全体の小学校の校内放送が活性化することを目指したい。

## (2) 広報

1. 目的 機関誌 研究紀要「考える目」を発行することにより、本研究会の研究概要を多くの教職員・他機関に広く知らせ、視聴覚教育の推進と意識の高揚を図る。
2. 発行日 研究紀要「考える目」 令和4年3月発行
3. 配付対象 研究紀要「考える目」PDFにて作成 相視研理事
4. 内容 研究紀要「考える目」
  - ・本研究会の研究内容の紹介
  - ・各種研究大会 発表報告 等
  - ・研究部、事業部などの研究、活動内容の報告
5. 確認事項 研究紀要「考える目」年1回発行  
締め切りは3月上旬。

## あとがき

相模原市立小中学校視聴覚研究会

副会長 田巻 直人

児童・生徒の豊かな人間性・社会性の育成を目指した、  
視聴覚・情報教育はどうあるべきか  
—新しい教育メディアを利用した視聴覚・情報教育の実践—

本研究会は上記テーマを設定し、4つの研究部会で6つに分かれ研究を深めてきました。特に今年度については、新型コロナウイルス感染症による臨時休校があり、学びの継続のための家庭学習等の充実が問われました。令和5年度までの整備事業であったGIGAスクール構想が前倒し実施され、2学期末には児童・生徒一人一台のタブレット型端末(Chromebook)が整備されました。運用にあたっての課題等や活用について各研究部において情報交換をし研究が進められ、互いに多くのことを学ぶ機会となりました。メディアリテラシー教育研究部では、学校だけでなく、家庭や今後の生活にも生かせる力の育成、ICT活用研究部では、ChromebookやG-Suiteの効果的な活用、プログラミング教育を推進していくための研究、番組活用研究部では、NHK for Schoolの効果的な活用、中学校部会では、G-Suiteの効果的な活用など今まで続けてきたものに新しい視点を加えての研究を行ってきました。またオンラインでの研究会を開催する中での課題や新たな学びがありました。

この研究紀要には、一年間の本研究会で話し合わせ、実践してきたことのすべてを載せることはできませんでしたが、研究会での実践が、新しい教育メディアを活用するための一助となり、多くの先生方に今後の教育活動に活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、相模原の視聴覚教育発展のために、ご指導くださいました諸先生方、研究推進に当たってくださいました先生方、授業を提供してくださいました先生方、各大会での発表をしてくださいました先生方、放送コンテストを担当してくださいました先生方、本研究紀要に執筆してくださいました先生方に深く感謝申し上げます。